

1. 事業概要

事業名	二級河川横井川水系新家川 河川改修事業	
担当部署	都市整備部 河川室 河川整備課 地域河川・ダムグループ (連絡先 06-6944-6039)	
事業箇所	JR 阪和線下流～新家川橋上流 流域面積(横井川水系新家川) 11.7km ²	
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 新家川は、時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水で床下浸水を防ぐことを当面の治水目標とし河川改修事業を実施し、治水安全度の向上を図る。 	
事業内容	<p>【河川整備計画】 改修延長：L=約0.1km 整備対象区間：JR 阪和線下流～新家川橋上流(1.3km付近～1.4km付近)</p>	
事業費 ()内の数値は前回評価時点のもの	河川整備計画全体事業費：約20.6億円(約18.0億円) 投資済事業費(令和元年度末)：約14.7億円 事業費の内訳 用地費 約1.00億円(約0.04億円) 工事費 約19.01億円(約17.66億円) 調査費 約0.54億円(約0.30億円) 投資済事業費(令和元年度末) 用地費 約0.00億円 工事費 約14.30億円 調査費 約0.36億円	
事業費の変更理由	<p>【事業費変動要因の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関との協議を踏まえた迂回路設置の仮設工法の変更等による事業費および用地費の増加。 社会的要因(人件費や消費税等の上昇)による事業費の増加。 	
維持管理費	約0.10億円/年(治水経済調査要綱に基づく建設費の0.5%/年)	

2. 事業の必要性等に関する視点

	【再評価時点 H27】	【再々評価時点 R02】	変動要因の分析																
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>[洪水発生時の影響] 浸水想定面積：約8.0ha (平均浸水深：約0.7m) 浸水家屋：約82戸</p> <p>※対象河道：事業着手時点 河川整備基本方針で定められた100年に1回の降雨規模の 浸水面積・浸水家屋(世帯)</p> <p>(2市1町(泉南市、泉佐野市、田尻町)人口等の動向) ・人口 H22:173,289人 ・世帯数 H22:64,943世帯 ・事業所数 H22:7,686所 ・就業者数 H22:82,133人 ・高齢者数 H22:38,060人</p> <p>※人口、世帯数は平成22年度国勢調査、その他は平成22年度大阪府統計年鑑より</p>	<p>[洪水発生時の影響] 浸水想定面積：約12.1ha (平均浸水深：約0.4m) 浸水家屋：約88戸</p> <p>※対象河道：R1年度末河道 河川整備基本方針で定められた100年に1回の降雨規模の 浸水面積・浸水家屋(世帯)</p> <p>(2市1町(泉南市、泉佐野市、田尻町)人口等の動向) ・人口 H27:171,821人 ・世帯数 H27:68,138世帯 ・事業所数 H27:7,351所 ・就業者数 H27:76,708人 ・高齢者数 H27:43,119人</p> <p>※人口、世帯数は平成27年度国勢調査、その他は平成27年度大阪府統計年鑑より</p>	微地形を反映した地盤高の高精度化により、浸水面積は増加したが、着実な整備により氾濫ボリュームは減少し、浸水深が低減している。 (2市1町(泉南市、泉佐野市、田尻町)) H22比1.0%減 H22比4.9%増 H22比4.4%減 H22比6.6%減 H22比13.3%増 人口は微減であるため、大きな変化はないが、高齢者人口は増えている。																
地元等の協力体制等	<p>(主な洪水被害) (出典：横井川水系河川整備計画参考資料より)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>発生年月</th> <th>被害状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昭和57年7～8月の豪雨、台風10号</td> <td>横井川水系の関係市町では、泉南市、泉佐野市で床上浸水3戸、床下浸水67戸に及んだ。</td> </tr> <tr> <td>昭和58年5～7月の豪雨</td> <td>横井川水系の関係市町では、泉南市で床下浸水20戸に及んだ。</td> </tr> <tr> <td>昭和63年6月の豪雨</td> <td>横井川水系の関係市町村では、泉南市で床下浸水10戸に及んだ。</td> </tr> <tr> <td>平成元年8～9月の豪雨</td> <td>横井川水系の関係市町では、泉南市で床上浸水2戸、床下浸水1戸に及んだ。</td> </tr> <tr> <td>平成5年2月の豪雨</td> <td>横井川水系の関係市町では、田尻町で床下浸水3戸に及んだ。</td> </tr> <tr> <td>平成7年6～7月の豪雨</td> <td>横井川水系の関係市町では、泉南市、田尻町で床下浸水17戸に及んだ。</td> </tr> <tr> <td>平成29年10月の台風21号</td> <td>横井川水系横井川では、川原出橋上流右岸において護岸が被災した。</td> </tr> </tbody> </table>		発生年月	被害状況	昭和57年7～8月の豪雨、台風10号	横井川水系の関係市町では、泉南市、泉佐野市で床上浸水3戸、床下浸水67戸に及んだ。	昭和58年5～7月の豪雨	横井川水系の関係市町では、泉南市で床下浸水20戸に及んだ。	昭和63年6月の豪雨	横井川水系の関係市町村では、泉南市で床下浸水10戸に及んだ。	平成元年8～9月の豪雨	横井川水系の関係市町では、泉南市で床上浸水2戸、床下浸水1戸に及んだ。	平成5年2月の豪雨	横井川水系の関係市町では、田尻町で床下浸水3戸に及んだ。	平成7年6～7月の豪雨	横井川水系の関係市町では、泉南市、田尻町で床下浸水17戸に及んだ。	平成29年10月の台風21号	横井川水系横井川では、川原出橋上流右岸において護岸が被災した。	
発生年月	被害状況																		
昭和57年7～8月の豪雨、台風10号	横井川水系の関係市町では、泉南市、泉佐野市で床上浸水3戸、床下浸水67戸に及んだ。																		
昭和58年5～7月の豪雨	横井川水系の関係市町では、泉南市で床下浸水20戸に及んだ。																		
昭和63年6月の豪雨	横井川水系の関係市町村では、泉南市で床下浸水10戸に及んだ。																		
平成元年8～9月の豪雨	横井川水系の関係市町では、泉南市で床上浸水2戸、床下浸水1戸に及んだ。																		
平成5年2月の豪雨	横井川水系の関係市町では、田尻町で床下浸水3戸に及んだ。																		
平成7年6～7月の豪雨	横井川水系の関係市町では、泉南市、田尻町で床下浸水17戸に及んだ。																		
平成29年10月の台風21号	横井川水系横井川では、川原出橋上流右岸において護岸が被災した。																		

	【再評価時点 H27】	【再々評価時点 R02】	変動要因の分析
事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標>	<ul style="list-style-type: none"> • B/C=2.7 B= 45.510 億円 C= 16.878 億円 建設費 18.0 億円 維持管理費 4.5 億円 <p>【算定根拠】 「治水経済調査マニュアル H17.4」</p> <p>※今回評価において、H21 時点の費用便益分析を行ったものを記載。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • B/C=2.0 B= 56.718 億円 C= 27.871 億円 建設費 20.6 億円 維持管理費 5.1 億円 <p>【算定根拠】 「治水経済調査マニュアル R2.4」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・氾濫計算メッシュの変更 ・最新統計データ資料 ・評価基準年の変更 ・マニュアル改定
事業効果の定性的分析（安心・安全、活力、快適性等の有効性）	<p>【安心・安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業効率等を考慮して、時間雨量 80 ミリ程度の降雨による洪水で床上浸水を防ぐことを目標としている。 ○事業箇所近傍には、JR 新家駅や小学校、上流住宅街が見られ、通勤・通学等の人通りの多い地域であり、指定避難所である小学校への安全な避難経路の確保が必要な地域である。 <p>【活力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自助・共助・公助が一体となったコミュニティを形成し、市民、事業者、行政の連携による洪水等の災害リスク低減対策の推進と災害時の円滑な避難、防災基盤の強化やハザードマップの整備等により、流域住民にとって安全な暮らしを実現し、活力あるまちづくりをめざす。 <p>【快適性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民等のニーズに応じて、櫻井川の中流・上流部では、今後の維持管理等の際には、アドプト・リバー・プログラム等の活動時における河道内へのアクセスの改善等の河川空間の利用の向上が図れるよう、また、高水敷を有する櫻井川の下流部では、関係機関等と連携し、地域住民が愛着を持てる空間として高水敷の利活用が図れるよう努める。 		

	【再評価時点 H27】	【再々評価時点 R02】	変動要因の分析
事業の進捗状況 <経過>	<ul style="list-style-type: none"> ① 2009 年度（平成 21 年度） ② 2009 年度（平成 21 年度） ③ 2020 年度（令和 2 年度） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 2009 年度（平成 21 年度） ② 2009 年度（平成 21 年度） ③ 2025 年度（令和 7 年度） 	
<進捗状況> (事業費ベース)	全体:57%	全体:71%	
事業の必要性等に関する視点における判定（案）	<p>現時点で再度、費用対効果を算出したところ、B/C は 2.0 であり、事業実施の妥当性を有する投資効果が確認できる。</p> <p>また、高齢化の進展並びに気候変動など新たに社会情勢が変化する中においても、自然災害に対する安全・安心の確保に向けた事業の必要性には変化がないこと、地元市からも河川改修事業の進捗を望まれていることから、本事業の必要性に変わりはない。</p>		

3. 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点における判定（案）	櫻井川水系河川整備計画（H28. 6 策定）及び、大阪府都市整備中期計画（案）（H28. 3 改訂）に位置付けて、事業を進めており、令和元年度末で、事業の進捗率は 71% である。これまでにも河道改修を推進し、治水安全度の向上に努めるなど、着実に成果を上げており、早期完成を目指し、引き続き事業を継続することが妥当である。
-----------------------	---

4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点における判定（案）	河川整備計画に基づく整備を予定しているが、残土の工事間流用等による更なるコスト縮減や、より効率的な対策等について引き続き検討を行う。
------------------------------	--

5. 特記事項

前回評価時の意見 見具申と府の対応	(平成 27 年度大阪府河川整備審議会による審議) 「樫井川水系河川整備計画（変更）」の審議をもって事業再評価とし、本審議会において了承を得た。
その他	(河川防災情報の提供) ・現況での洪水氾濫・浸水の危険性に対する地域住民の理解を促進するため、樫井川水系の洪水リスク図を開示している。 ・江永橋、大正大橋と新家川橋に河川カメラを設置し、現況水位の映像をインターネットで公開している。 ・大阪府などでは、河川の氾濫や浸水に対して、流域関係市町とホットラインを構築し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供。

6. 対応方針（原案）

対応方針（原案）	<p>○継続</p> <p><判断の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点で再度、費用対効果を算出したところ、B/Cは 2.0 であり、事業実施の妥当性を有する投資効果が確認できる。また、高齢化の進展並びに気候変動など新たに社会情勢が変化する中においても、自然災害に対する安全・安心の確保に向けた事業の必要性には変化がないこと、地元市からも河川改修事業の進捗を望まれていることから、本事業の必要性に変わりはない。 ・樫井川水系河川整備計画（変更）（H28.6 策定）及び、大阪府都市整備中期計画（案）（H28.3 改訂）に位置付けて、事業を進めており、令和元年度末で、事業の進捗率は 71%である。これまででも、河道改修を推進し、治水安全度の向上に努めるなど着実に成果を上げており、早期完成を目指し、引き続き事業を継続することが妥当である。 ・河川整備計画に基づく整備を予定しているが、残土の工事間流用等による更なるコスト縮減やより効率的な対策等について引き続き検討を行う。 <p>以上の理由により、事業の継続は妥当。</p>
----------	--

